

令和6年1月11日  
302会議室

令和6年第1回  
立川市教育委員会定例会

立川市教育委員会

## 令和6年第1回立川市教育委員会定例会

1 日 時 令和6年1月11日(木)

開会 午後 1時30分

閉会 午後 2時36分

2 場 所 302会議室

3 出席者

教育長 栗原 寛

教育委員 石本 一弘 伊藤 憲春

小柳 郁美 堀切 菜摘

署名委員 小柳 郁美

4 説明のため出席した者の職氏名

教育部長 齋藤 真志

教育総務課長 小林 直弘

学校施設建替担当課長 鈴木 信貴

学務課長 澤田 克己

指導課長 佐藤 達哉

統括指導主事 片山 伸哉

統括指導主事 野津 公輝

教育支援課長 鈴木 峰宏

学校給食課長 青木 勇

生涯学習推進センター長 庄司 康洋

図書館長 池田 朋之

5 会議に出席した事務局の職員

教育総務課庶務係 和田 健治

柏崎 彩花

## 案 件

### 1 議案

- (1) 議案第1号 学校給食費の改定について（諮問）

### 2 協議

- (1) 卒業式・入学式「お祝いの言葉」文案について

### 3 報告

- (1) たちかわ電子図書館調べ学習用デジタル資料集について

### 4 その他

令和6年第1回立川市教育委員会定例会議事日程

令和6年1月11日  
302会議室

1 議案

(1) 議案第1号 学校給食費の改定について（諮問）

2 協議

(1) 卒業式・入学式「お祝いの言葉」文案について

3 報告

(1) たちかわ電子図書館調べ学習用デジタル資料集について

4 その他

---

◎開会の辞

○栗原教育長 ただ今から、令和6年第1回立川市教育委員会定例会を開催いたします。

署名委員に小柳委員、お願いいたします。

○小柳委員 承知しました。

○栗原教育長 次に、議事内容の確認を行います。本日は、議案1件、協議1件、報告1件でございます。その他は議事進行過程で確認をいたします。

次に、出席者の確認を行います。齋藤教育部長、お願いいたします。

○齋藤教育部長 本日、第1回立川市教育委員会定例会への出席管理職でございます。教育部長、教育総務課長、学校施設建替担当課長、学務課長、指導課長、片山統括指導主事、野津統括指導主事、教育支援課長、学校給食課長、生涯学習推進センター長、図書館長、以上でございます。

---

◎議 案

(1) 議案第1号 学校給食費の改定について（諮問）

○栗原教育長 それでは、1議案(1)議案第1号、学校給食費の改定について（諮問）、を議題といたします。

青木学校給食課長、説明をお願いいたします。

○青木学校給食課長 学校給食課より、議案第1号、学校給食費の改定について（諮問）のご説明をいたします。

現在の学校給食費につきましては、小学校は平成28年10月、中学校は共同調理場方式に移行した令和5年2学期より改定を行い、食材料の購入を行ってまいりました。しかし、近年の急激な物価高騰により運営が非常に厳しい状況となっており、令和4年6月から市の一般財源や国の交付金を活用して学校給食費の補助等の支援を実施してきております。今後も給食水準を維持するため、学校給食費の改定について立川市学校給食運営審議会に諮問するものであります。

ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

○栗原教育長 説明ありがとうございました。これより質疑に移ります。説明内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

少し補足を申し上げますと、最終的な改定の決定は教育委員会が行いますが、その前に教育委員会から学校給食運営審議会に諮問いたしまして、そちらでご協議いただいた内容を答申としてお戻しいたします。また答申を教育委員会の中で協議をして最終的に決定するという流れとなります。本日の議案としましては、学校給食運営審議会に諮問をするかどうかということについてのご判断を、皆さんにお願いをしたいと考えています。

では、ご質疑をお願いいたします。

小柳委員、お願いいたします。

○小柳委員 では、教育委員会から学校給食運営審議会にこの内容で諮問をして、学校給食運営審議会から、ここは何か違いますというようなことがあると、また戻ってくるということですか。

○栗原教育長 改定に至るまでの流れの確認でございます。

青木学校給食課長、お願いします。

○青木学校給食課長 諮問をさせていただいて、協議をさせていただいて、答申という形でどのような回答が返ってくるのかというご質問になるかと思えます。こちらでは改定の検討をさせていただきたいという諮問をさせていただきますけれども、必要がないと言われる場合もありますし、内容を協議してこういうような形でやっていくべきではないのかというようなことも、答申として出される可能性もあると思えます。

以上です。

○栗原教育長 小柳委員、お願いいたします。

○小柳委員 では、答申が返ってきたら、教育委員会でまた、これで良いのか話し合うような対応をするのですか。

○栗原教育長 青木学校給食課長、お願いいたします。

○青木学校給食課長 学校給食運営審議会からの答申は、あくまでも教育委員会に対して、こういうことを審議会で議論をして、このように答申を出させていただきますという内容になりますので、またその答申に対して教育委員会としてどのような考え方を持つのかというのを、協議をさせていただくことになると思えます。

以上です。

○栗原教育長 ほか、いかがでしょうか。

〔「ありません」との声あり〕

○栗原教育長 ほか、ないようでございます。それでは、お諮りいたします。1 議案(1) 議案第 1 号、学校給食費の改定について(諮問)、は提案のとおり承認することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」との声あり〕

○栗原教育長 異議なしと認めます。よって、議案第 1 号、学校給食費の改定について(諮問)、は承認されました。

---

## ◎協 議

### (1) 卒業式・入学式「お祝いの言葉」文案について

○栗原教育長 続きまして、2 協議 (1) 卒業式・入学式「お祝いの言葉」文案について、に入ります。

澤田学務課長、説明をお願いいたします。

○澤田学務課長 学務課より、卒業式・入学式「お祝いの言葉」の文案についてご説明させていただきます。

昨年度、この「お祝いの言葉」につきましては委員の皆さまよりいろいろご意見をいただきまして、基本的な構成内容及び文案のフォーマットを作成いたしました。今年度はその基本的な構成内容及び文案は踏襲しつつ、卒業式の「お祝いの言葉」につきましては、その年のトピックスなどを挿入し、令和6年の卒業式と分かるような文案を作成しております。

令和6年の「お祝いの言葉」の構成内容としましては、資料に記載のとおりでございます。その他、参考資料で別紙1として過去5年間の卒業式・入学式「お祝いの言葉」の構成内容一覧を添付しております。

文案ですけれども、先ほど申し上げました卒業式の「お祝いの言葉」につきましては、野球の大谷選手のことに触れまして、彼の活躍は才能だけではなく将来の目標設定やそれに向けて努力をしてきたことに触れ、立川の学校で学び地域に根差した学習を終えて巣立っていく子どもたちへ、努力を積み重ね、自信を持って自分らしく目標に向かって前進して欲しいといったメッセージとしております。

そして、入学式の「お祝いの言葉」につきましては、地域に根差した学校生活を過ごす子どもたちへ向けた前向きなメッセージとしております。

校内掲示及び配布方法につきましては、昨年と同じ地模様の入った白地の用紙に印刷して掲示をするともに、配布用の用紙は桜色のA4の用紙に印刷をして配布をしたいと思っております。

文字の方向は昨年から横書きに変更しており、今回も横書きとしております。

本日委員の皆さまに文案をお示ししておりますので、ご協議をいただきまして、本日いただいたご意見などを反映させた修正後の文案を、2月に行われる第3回教育委員会定例会で再度ご審議いただいて内容を決定する予定でございます。よろしくご協議のほど、お願いいたします。

なお、この「お祝いの言葉」は、卒業式・入学式で教育委員会の言葉として初めて皆さんにお伝えしたいと思いますので、取り扱い内容についてはこの委員会のみとさせていただきたいと思っております。

説明は以上です。

○栗原教育長 説明ありがとうございました。これより質疑に移ります。説明内容を踏まえ、ご質疑というよりか意見が主だと思いますので、皆さんからのご意見をいただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

伊藤委員、お願いいたします。

○伊藤委員 ご説明ありがとうございます。また、とても分かりやすく、いい表現に、シンプルになっているのではないかと思います。1点だけですが、中学校の卒業式の一番下のほ

うです。「そして、保護者や先生をはじめ」というところの後に「心から」というのと、そのすぐ下にまた「心より」という言葉があって、読み上げの場合には「心から願っております」でいいのですが、文章にすると、ここで「心から」「心より」と2つ来るのが少し気になったのでご検討をいただいて、どちらでも結構ですけれども、例えば上のほうは「主体的な担い手として活躍していくことを期待しております」でもいいのかなという気はいたします。

以上でございます。

○栗原教育長 これについて、この場で、今、伊藤委員からいただいたご意見を採用しましょう、または見送りましょう、とはこの時点では判断をいたしません。それぞれの教育委員の皆さんからご意見をいただいて、総合的にまた事務局のほうでそれを反映した中で文案を練ります。

今の伊藤委員のご意見は、中学校の卒業式の「心から」「心より」という言葉について、そういった言葉が続くので違う言葉に置き換えたらどうかということで、このご意見についてはこちらを参考にさせていただいて、また修正を加えるかどうか判断をしていきたいと考えております。

ほか、いかがでしょうか。

堀切委員、お願いいたします。

○堀切委員 私は、この「お祝いの言葉」の協議をするのは就任したばかりなので初めてですけれども、これまでどういうふうにしてこのフォーマットになったのかという疑問を持ったので、過去の議事録を2〜3年分を読みました。そうしましたら、私が抱いた印象は、当時の教育委員であった小林さんという方と嶋田さんという方が多く発言されていました。それがご意見として出されて、それが何らかの理由で採用されなかったものだったのだらうと思いました。メッセージというのは、対象者と内容というのが多分一番大事だと思います。もともと教育委員会として告示があるというのが形として大事だということはもちろん理解はしているのですが、これを見た時に一番大事なのは対象者と内容と最初に思いました。それで、一応私は児童の保護者であるので、児童の保護者として読んだ時に、卒業式のほうは読まないなという印象を持ちました。

入学式のほうは、私は今度娘が1年生になりますので、「皆さんにお願いがあります」ということですごくメッセージを感じて、これを子どもと一緒に読んでもいいな、読みたいなと思いました。「誰もが楽しく」というところは少し引っかかったりもして、もちろん細かいところはあるのですが、この2段落目の真ん中のメッセージは、メッセージとしてすごく存在意義があると思います。入学の時にこれがあると不安が取り除かれたりしてすごくいいのではないかと思います。こういう文章は、全体に向けて出す、公開する、説明するということに関してはすごくいいと思うのですが、本当に一人ひとりに読んでもらう、届けて意識を変えて行動してもらおうと考えた時に、まだ少し弱いなと思います。かなり説明調で、一人ひとりの児童・生徒、保護者に届けるには、少し弱いと感じました。入学式のほうは、私が勝



手に想像した範囲では、今、子どもたちのメンタルヘルスのスコアがすごく低いので、心理的安全性がやはり学校の中で必要だという問題意識があって、こういうメッセージを出しますということだと分かるというか、そういうことかと理解をしました。中学校のほうも、心の健康に関して教育委員会からこういうメッセージがありますということなのかと思いました。

卒業式のほうは、大谷翔平選手がイチローでも、25年ぐらい前に配られてもそんなに変わらないと思いました。あと、この「目的を持ちましょう」「目標を立てましょう」と言っている文章に私は目的を感じなかったの、そういうのは子どもはすごく見抜きますので、これはあまり存在意義を私は感じませんでした。

お伺いしたいのは、フォーマットを踏襲する根拠を教えてくださいたいです。対象者と内容を絞れば別に字数や例え話があるのが伝わるかどうかということでも協議ができると思うので、そこはなぜフォーマットをこのまま踏襲するかということをお伺いしたいのが1つです。反応があったのか、なかったのかなどです。

あとは、校内掲示及び配布方法とあるのですが、これは例えば配布するかどうかを決める自由は学校にはないということでしょうか。

その2点をお伺いしたいです。長くなってすみません。

○栗原教育長 意見と質問とが織り合っているので少し整理をしたいのですが、一点は、配布というのは学校に選択肢があるのかということです。もう一つの質問というのは、フォーマットとして、それは自由度があるのか、それとも去年ある程度形式的なものは固めたので、それを踏襲すべきか、質問としてはその二点ということによろしいですか。

○堀切委員 はい、そうです。

○栗原教育長 では、まずこの質問について、澤田学務課長、お願いします。

○澤田学務課長 まず、「お祝いの言葉」の配布につきましては、実際のところは、以前までは「お祝いの言葉」というと壇上で事務局の職員等がお話しをしていたのですが、コロナということがあってこういった掲示方式に変わってきております。

こちらの掲示及び配布につきましては、掲示といっても大きな模造紙にこの文面が載って、それを張るというわけではなくて、例えばお祝いのメッセージなどが張ってある掲示板のところに張るような形ですから、B4とかA3ぐらいの大きさになるかと思います。それを体育館の目立つところに学校によっては置いていただいているという状況ですけれども、保護者、児童・生徒が全員それを読めるかと言われると少し疑問がありますので、文書という形で受付時に保護者の方にも配るようにして、教育委員会としてお祝いの気持ちを伝えるという意味合いで配布をしているということでございます。

フォーマットの部分は、昨年度の定例会でご協議をいただいて、ある程度の方向性を出したというところで理解をしております。これをいったんフォーマットとして出しましたけれども、もちろん例えば卒業式などは前のものを全く踏襲しているわけではなくて、こういっ

た事例的なものも入れつつ時勢に合ったメッセージを作りました。

「お祝いの言葉」については、確かに、毎年入学する子どもはもちろん違うということもありますが、メッセージ的にはこのような内容で踏襲をしていくということでございます。

以上です。

○栗原教育長 齋藤教育部長、お願いいたします。

○齋藤教育部長 少し補足させてください。

まず、この形式的な部分でございますが、最後のページでこれまでの経過もお付けしております。以前は壇上で直接教育長をはじめ教育委員、あるいは教育委員会事務局の者が学校にお邪魔して厳粛な式典の中で直接児童・生徒にお伝えさせていただいた経過がございます。今回のコロナ禍のさまざまな行動変容も含めまして、そういった人生、あるいはこの学校生活の大きな節目の中で、教育委員会としてお伝えしなければならない内容について、これまでの読み上げ形式から掲示方式に変更はさせていただいておりますが、狙いとしては大きな節目の中で教育委員会として公式な体裁を整えさせていただいたところがあるかと思えます。

その中で、議事録も見ていただいたとおり、児童・生徒の方、あるいは保護者の方にどう伝わりやすいかというところは意識しながら、文字や書き方で横書きにするなどさまざまな工夫はしていく中で、また昨年の変更内容も踏まえて、いったんはこういった形式に落ち着いておりますが、委員からもご指摘があったとおり、教育委員会としては児童・生徒、保護者に気持ち、あるいは改まった場の雰囲気も含めてお伝えしたいというところがあって、こういった形式に落ち着いています。

それと配布については、各学校で必ずしていただくような形で整理をさせていただいておるところになります。その時節を含めた内容等について、あるいはより当事者性を持っていただく呼びかけのなところや、恐らく先ほどいただいた入学式のところは少し伝わるのではないかというご意見は、そういった呼びかけも含めた工夫があるというところかとは思いますが、卒業式についても当然お伝えしたいという中で、こういった内容を案として示させていただいておりますので、そこも含み置きまして、具体的な内容につきましてはご意見等を賜ればありがたいと思っております。

長くなりましたが、以上です。

○栗原教育長 伊藤委員、お願いいたします。

○伊藤委員 昨年の「お祝いの言葉」の時に私は申し上げたのですが、正確には告辞文です。

例えば、小学生が卒業する時というのは、学校が卒業を認めるのではなくて、立川市教育委員会が卒業するということを宣言するわけです。違いますか。そこは後でもし違ったら変えていただければよろしいのですが。立川市教育委員会が卒業を告辞します。君たちを卒業として認めますよ、というようなことを言った上で、校長が式辞、つまり卒業式という式を挙行するための言葉を述べます。その後、例えばお客さまやほかの方がお祝いの言葉、祝辞

を述べるというのが本来の形ではなかったかなという気がするのです。それが、「お祝いの言葉」ということになってしまったために、祝辞なのかどうかというところが少し曖昧になっています。つまり、立川市教育委員会が、皆さまを卒業と認めますよということを告げる場が何となく「お祝いの言葉」になってしまったので、難しい言葉が入ったり、いろいろな話もあったりしながら出てきたのが今までの流れではないのかという気がいたします。ですから、祝辞だったら、今、堀切委員がおっしゃったように、もう少し違う言葉で話をするのもいいかなと少し感じましたので、その辺はどうなのでしょう。

○栗原教育長 以前の卒業式の流れですと、今、伊藤委員がおっしゃったように、教育委員会の告辞、校長の式辞という形でつながっていて、告辞というのは教育委員会から告げる言葉ということで、特にそれが小学生や中学生の卒業を認めるという行為ではなかったと思います。あくまでも卒業の認定というのは各学校ということになります。ただ、コロナ禍前は、そういった流れの中で告辞という形で私も壇上で読むなどもしました。コロナ禍を経て、式典やそういった部分でやはりいろいろ見直すべきところは見直しましょうということで、私どもの教育委員会の告辞は壇上で読むのは取りやめて、その代わりに「お祝いの言葉」という形になったという変遷になります。少し今までの経過も踏まえた中での説明になります。堀切委員、お願いします。

○堀切委員 これまでの経過というか、作っていただいたこれとしては一応論理はあるというか、通ってはいるということは分かったのですけれども、読まれなくても配るのかと、すみませんが、思っていました。

先ほど齋藤教育部長のほうから、立川市教育委員会として伝えたいメッセージという言葉がございましたので、卒業式のほうは立川市教育委員会として伝えたいメッセージというのが、ここだと「地域に根差した学習を終え巣立っていく子どもたちへ向けた」ということしか書かれていないので、伝えたいことは何なのかを伺ってもよろしいでしょうか。

○栗原教育長 今はどちらの文章になりますか。

○堀切委員 卒業式のほうです。

○栗原教育長 私が質問をしてごめんなさい。堀切委員の今の質問というのは、それぞれ、小、中ですか。

○堀切委員 どちらでもいいです。大変失礼ながら申し上げますと、AI が書いたような文章だと私は印象を受けました。ChatGPT にプロンプトを3つぐらい打ち込んで出してみたらこういう文章が出てきたのです。大変失礼ながら申し上げますと、いろいろな方がもう思っているらっしゃって、正しいことではあるのでしょうけれども、読んで特に新しい感じなどはないから、情報としてはあまりないという判断に恐らくなるのだらうと思いました。もしメッセージで出したいことが1つあれば、やはりそこをきちんと絞って、それを膨らませていくなどということは、かっちりとした文章の中でもできることだと思いますので、すみませんが、そういう意図で卒業式のほうは何を伝えたいのかをお伺いしたいです。

○栗原教育長 今回の質問は、特に小、中ということではなくて、この文面で一番伝えたいメッセージの部分はどこかという質問と私は捉えました。

佐藤指導課長、お願いいたします。

○佐藤指導課長 ご意見ありがとうございます。今、ChatGPTの話もございました。ChatGPTを否定するわけではありませんが、それを基に作ったものではございません。ただ、人間が作ったものがChatGPTでもそういった文面が出てきたということは、ある部分では一生懸命考えて作ったものが、そういったところでも認められたと私は捉えております。

こちらにつきまして、メッセージの中では大谷選手のことが書かれています。どのお子さんにとっても、100人が100人全員というわけにはいかないと思いますが、多くのお子さんがご存じの選手で、また日本から活躍する人材がこうやって出ているのだというところで、やはりこれから羽ばたいていく、飛び立っていく児童・生徒がそういった選手を目標にしながら、また自分でもやればできるんだということも含めて、一つ励ましのメッセージになるのかなと私は捉えております。ただ、これの受け止め方はそれぞれあるかと思っておりますので、さらにまたご意見をいただきながらこちらの内容は改善できたらと思っております。

以上です。

○栗原教育長 堀切委員、お願いいたします。

○堀切委員 「地域に根差した学習を終えて」と書いてあったので、主体的な担い手として活躍していくということが、もしかしたら教育委員会ならではのメッセージとなり得るのかなと私は思っていたのですが、大谷選手が励ましになるということで、そうなるこの文面のかなと思うのですが、子どもの目線で考えた時に、それが励ましになるかどうかというのはやはり少し考えなくてはならないですし、去年か一昨年もどなたかが偉人の例が必要なのかということをやはり言っていたらと思うのですが、目標を立てて、それに向かって努力を続けることは、普通はできないと思うのです。普通はできないから、やり続けると一流になるというのは私から見た現実です。目標の何か一致するところ、妥協点とは言いにくいですが、今までのかっちりとしたものできっちり伝えたいというところと、やはり読んで響いてほしいというところで、どこかで目標が一致するといいなと思います。

すみません、長くしてしまっ。本当は早く決めたいというところだと思うのですが。

○栗原教育長 この場でさまざまな意見をおっしゃっていただくことは、教育委員会定例会では、それは構わないのですが、私どもがまず求めているのは「ここはこういうふうに変えたほうがいいのか」といったほうが具体的で、感覚的なことを「これは響きません」と、全部が駄目出しなのかもしれないけれども、そういう言い放しではなくて、「ここをこう変えるんです」という提案を堀切委員にはぜひお願いをしたいと思っております。

いったん長くなりましたので、ほかの委員も意見があると思っておりますので、ここで切ります。再度ご意見がある場合は、また私のほうで指名をいたします。

ほか、いかがでしょうか。

石本委員、お願いいたします。

○石本委員 幾つかあるので、私はまず卒業式について申し上げたいと思います。小学校の卒業式のところです。本文3行目ですが、「新型コロナウイルス」という表記があるのですが、中学校のほうでは「感染症予防に」という表記があるので、もう新型コロナウイルスはいいのではないかと私は思いますので、中学校の表記の「感染症等」というような表記がよろしいのではないかなと思っています。

それから、続けて中学校の卒業式についてですが、本文の4行目です。「新時代の中学校生活」とあるのですが、何をもちょう中学校の新時代というのかがよく分からないので、場合によっては誤解や憶測を生みかねないと思いますので、具体的な表記がありがたいと思いました。

それから、7行目になります。「これまで経験したことがないような厳しい状況乗り越え」とありますが、私はとてもこの言葉が強く感じるのです。子どもたち自身がそういうように感じるかなという戸惑いもあります。中学校生活の3年間でこれまで経験したことがないような厳しい状況だと子どもたちが本当に果たして思っているだろうか、少し違うのではないかなという思いがするので、子どもたちの感覚に響くような表記に工夫をいただけないかなという思いがあります。

卒業式の最後になります。15行目からの3行です。「皆さんも自分の夢や目標に向かって努力を積み重ね、この学校で学んだことを自信としてそれぞれの進路で自分の夢に近づけるよう、願っています」とあります。おっしゃりたいことはよく分かるのですが、中学校卒業ということで義務教育は9年間です。その学んできた小・中全てひっくるめてそういう学校生活の中で、授業だけではなかったと思いますが、そういうのをベースにして、皆さん一人一人がそれぞれ自分の進む道を自分らしくというのを、これから探していくということになるんだと思うのですが、そういうような表記がありがたいと、卒業式については思いました。

○栗原教育長 今回の石本委員からの意見は修正の参考にさせていただいて、特段この言葉に置き換えるということではなくて、工夫が必要だということで、またこちらのほうで修正案を考えたいと思います。ありがとうございました。

ほかはいかがでしょうか。

小柳委員、お願いいたします。

○小柳委員 まず、入学式に関しては、これで小学校も中学校も私はいいと思っています。小学校は振り仮名も振ってあるので平仮名を読む練習にもなりますし、中学校の入学式に関しては、教育委員会が皆のことを陰ながら見守っているよというようなメッセージになると思うので、入学式に関してはこのままでいいと思います。

卒業式に関して、小学校も中学校もですが、やはり文字が多くて、いかに見てもらうかというところが大事だと思うので、以前小林委員もおっしゃっていたと思うのですが、やはり絵が必要と私は思っています。例えば、案としておぼろげに思っていることですが、いつも

くるりんは裸ん坊ですけれども、学ランを着せてみるとか、限定くるりんのように、この時にしかもらえないくるりんが描いてあると、もしかしたらこれはもう一生持ってファイルしている子がいるかもしれないと思います。

ただ、この文面だと長いので、どこを削るかという、私はこの大谷選手のところを、申し訳ないですが、要らないかなと思っています。大谷選手はチャートなどを書いて確かに計画的にやってきた方ですが、大谷選手と言われてしまったらもう頑張れないわ、という子ももしかしたらいるのかなと思います。私はネガティブな人間なので、大谷選手と言われてしまうともう何も言えないというようなところがあるので、ここを削って、例えば小学校の最初のところで「卒業生のみなさん、おめでとうございます。4月からみなさんは中学校生活という新たなステージが始まります」のところで、保護者への挨拶もあって、その後に限定くるりんや限定ウドラなど、少し著作権の問題などもあるかもしれないですが、そういったことがあると、卒業式の時にはこういうのをもらえるらしいよ、とキャラクターの宣伝にもなっているのではないかと思います。せっかく卒業式まで何年間も頑張ってきたので、ご褒美くるりんではないですが、そういったものもあっていいのかなと思いました。すみません、イメージばかりです。

以上です。

○栗原教育長 これはフォーマット自体もまた新たに変更するという提案でしたが、いったん提案として、こちらで小柳委員からの意見としてそれも受け止めます。

ほかはいかがでしょうか。

石本委員、お願いいたします。

○石本委員 今度は入学式で申し上げたいと思います。小学校の5行目になります。「みなさんにお願ひがあります」とあるのですが、ここは、保育園・幼稚園を卒業した小学校1年生へのメッセージなので、はっきりと、例えば「ありがとう」「何々ができたね」「すごいね」などと、伝わりやすく、心に持ってほしい思いというのでしょうか、そういうことが言える子になろうや、そういうことをいっぱい友達に言おうねなど、何かそういうプレゼントのほうがいいと感じました。

それから、中学校の入学式です。私が見ついなと感じたのは3行目です。「今まで以上に挑戦する気持ちを大切に」とあります。ぎりぎりいっぱい小学校を卒業した子にはきつかりと、私が言われてもきついだらうと感じるのです。もっと頑張れ、もっと頑張れというメッセージばかりになってしまうのも、やはりよくないと思います。その子なりの歩み、発想、環境があると思うので、ここはご配慮いただきたいと思っています。

最後になります。9行目の「中学生時代は成長とともに自分の事」と書いてあるのですが、「自分の事」とは何ですか、と私は思ってしまったのです。恐らくは、自己実現に向けて自分の存在や、自分の在り方のようなものを問う、振り返るといふか、中学生になったらそういうことは必要だよ、ということをも多分お伝えしたいのではないかなと思ったので、そう

ということが伝わるような文言の工夫が私は必要だと感じました。

以上です。

○栗原教育長 今、小学校の入学式、中学校の入学式、それぞれの言葉の使い方等についてご意見をいただきました。これについてはまた参考にさせていただきます。

ほか、いかがでしょうか。

堀切委員、お願いいたします。

○堀切委員 小学校の入学式ですが、私も石本委員と同じように、「ありがとう」「うれしい」などの言葉をたくさん伝えてくださいというのは、そのように思いました。

あとは、「そうすることでだれもが楽しく」というのは、私には少し引かかりました。ただ、嫌なことはされない、嫌なことが起きないという、安心して学校生活を送ることができると思うので、安心という言葉が子どもに響くかどうかというのはありますが、気持ちよくというよりは安心かと、そこはそういう言葉のほうがいいと思いました。

中学校の入学式のほうは、私は、ここは3段落目のところはすごく大事なところで、子どもも難しい年齢に入っていきますので、ここの部分は子どもにそういう節目、節目で、何かあったら言ってね、などということを伝えるきっかけになるので、とてもいいのではないかと思います。ここの部分ですが、「悩みや困ったことがあったら周りの人に伝えてください」のところですか。その下の段に「勇気と希望を持って」と書いてあるのですが、やはり伝えることに勇気が要ると思うのです。だから、悩みや困ったことを伝える勇気を持つというか、そこに勇気があるとすごくいいと思いました。

ただ、伝えて、ではどうなるのかということ、それが本当に伝わるのだろうかとか、あとは伝えただけでも解決しないなどということがやはり起こると思うのですが、伝えることによって例えば自分の悩みが客観的に見えることや、あとは自分がそれを乗り越えた時に同じような思いを持っている人のためになれることがあります。そういうことが具体的に書いてあると、また抽象的になってしまって申し訳ないのですが、皆さんの力になってくれる人がたくさんいますといっても、言ったけれども駄目だったというように思う方が、カウンセリングに来た時点ではもうかなり周りに対しての信頼を失っている子もいるので、そうではなくて、自分の心の声を聞いて声に出すということが、まず第一歩なのだということを入れていただきたいという、具体的ではなくて、お願いになってしまって、意見になってしまって、すみませんが、そのように思いました。

以上です。

○栗原教育長 ほかはいかがでしょうか。

〔「ありません」との声あり〕

○栗原教育長 先ほど申し上げたとおり、これをすぐに修正して、完成版を今日提示することはございません。先ほど澤田学務課長からございましたように、2月の第3回の教育委員会定例会で修正したものをまたご提示して協議になるということでございます。ですので、今

日はまだ1月中旬ですけれども、1週間ぐらいの期間を設けてメールで、この言葉はこのように修正、または大胆なフォーマット自体も変えるというようなご意見を、今日お出しただけなかった意見もあれば、お願いしたいと思います。

澤田学務課長、1週間ぐらいで期間を設けてまたメール等でご意見をいただくという形で大丈夫ですか。

○澤田学務課長 はい。

○栗原教育長 そういう形にしたいと思います、皆さん、それでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」との声あり〕

○栗原教育長 では、いったん今日の協議についてはここまでといたします。皆さんからの意見ですが、メールで教育委員会教育総務課に送っていただければと思います。

それをまた踏まえてこちらのほうで修正案を協議し、第3回の教育委員会定例会で再度、協議にご協力いただくという形で進めてまいります。よろしく願いいたします。

---

## ◎報 告

### (1) たちかわ電子図書館調べ学習用デジタル資料集について

○栗原教育長 続きまして、3報告(1)たちかわ電子図書館調べ学習用デジタル資料集について、に入ります。

池田図書館長、説明をお願いいたします。

○池田図書館長 それでは、たちかわ電子図書館調べ学習用デジタル資料集についてご報告いたします。これにつきましては、ホチキス留めの資料がお手元にあるかと思えます。

たちかわ電子図書館の中に地域資料というジャンルがございまして、今はこの「しらべてみよう『たちかわ』」ということでジャンルが1個設定されております。そこには、授業で教科となっております立川市民科等の授業や、調べ学習でご利用いただけるように立川市に関する記事や本のデジタル資料を集めて、電子図書館内に掲載しております。タブレット、パソコン、スマホなど、アクセスすれば児童・生徒ならびに先生が共に同時に同じ資料にアクセスできるという利点がございます。ただし、電子書籍自体が印刷、ダウンロードできませんので、あくまでも閲覧という形になります。

このカテゴリーの中には、1枚目の右側に「市のしごと・サービス」からテーマ「たちむにい」まで、14テーマございます。これにつきましては、おめぐりいただきまして2ページ目以下14ページまで、この14テーマに沿いまして立川市の資料や刊行物をそのテーマごとに抽出した内容になっております。

例えば、3ページ、たちかわし環境ブックです。これは自然環境分野で、「たちかわし環境ブック」という本がございまして。これは毎年発行される「たちかわし環境ブック」の特集部分を抜粋して、各テーマに関する解説と立川市の取組を紹介しているということで、2008年の「土の恵み」以下、こういう内容をクリックすると見られるということになっております。



こうしたテーマごとの資料が14ページにわたり書かれております。中には、ごみの問題とSDGsと重複している部分もございますけれども、それぞれのテーマに沿って記載されております。

この趣旨につきましては、図書館員と学校の図書館担当の教員が話し合う場がございまして、学校の先生から「立川市の郷土、市のことについて分かる資料がないですか」というようなことが従前から言われていまして、図書館のほうでそれでは一覧表にして授業でも使えるようにまとめてみましょう、ということで作成したものでございます。

最後に、一番裏面の15ページです。これからこうした講座等の歴史資料や市の刊行物がありましたら随時掲載していきます。特にこの「砂川めぐり」は非常に濃い内容で、執筆者の小坂先生は「学校の児童・生徒だったら著作権を許可します」ということで、これは一番下に黒の太字で書いてありますが、学校用の電子図書館の利用カードをお持ちの方、という制約を付けた形になっております。子どもたちが貴重な歴史の本を見ることができたり、八小に像が建っておりますけれども、二宮金次郎像の話は豊泉喜一さんが敷設経過なども詳しく書かれているということで、今後もこうした資料を随時掲載して、学校の先生ならびに児童・生徒が歴史資料に触れる機会をつくってまいりたいと思っております。

以上です。

○栗原教育長 説明ありがとうございました。これより質疑に移ります。説明内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

石本委員、お願いいたします。

○石本委員 質問ではなくて、感謝の言葉です。電子図書館ができてから、本当に日に日にバージョンアップされている様子も伺っていますし、今日頂いた資料のタイトルを見ると本当に魅力的なものもたくさんあって、私も正直、見たくになります。とても大変だったと思いますけれども、素晴らしいお仕事をさせていただいて感謝です。ありがとうございます。

以上です。

○栗原教育長 ほかはいかがでしょうか。

伊藤委員、お願いいたします。

○伊藤委員 私も、本当に素晴らしい事業になるなと思っております。防災についてももう少し、3つぐらいしか出ていないのですが。特に立川断層ですが、たしかこれだと「砂川めぐり」のところに立川断層という表現があったのですが、立川に立川断層という断層はないのです。河岸段丘です。ですから、そういうものも説明するような文章があるといいと思いましたが、またご検討をよろしくをお願いいたします。

○栗原教育長 ほか、いかがでしょうか。

小柳委員、お願いいたします。

○小柳委員 これだけの資料があれば、小学校、中学校の立川市民科はもうばっちりだと思います。すごくありがたいし、私も勉強になったことがあって、恥ずかしながら立川に空襲が

あったことも知らなくて、この「本を持たない二宮金次郎像」を見て初めて知った次第です。

1つリクエストですが、この1枚目の右側の「しらべてみよう『たちかわ』」をクリックするところや「ごみ」や「下水道」などが出てくると思うのですが、例えば農業と立川の野菜を上下に並べるといった関連めいたものを続けた方が見やすいのではないかと考えています。例えば「たちむにい」だと、これは市の施設なので例えば「まちづくり」に近づけるなど、そういったことをやってもいいと思いました。それと同様に、この電子図書館の表紙にもジャンルで探すというのが左側にあると思うのですが、これも同様に子どもの本とヤングアダルト系は近づいているのですが、子どもの本は子どもの本に近づけてみるといった工夫は必要かなと思います。あちこちに散らばっていると見落としがあると思うので、関連しているのを縦に並べてみるのがいいと思いました。

もう一つは、電子図書館の表紙です。

谷重治文庫やKOTOBUKIYA presents や TACHIHI presents などとあると思うのですが、本を読む時に谷重治文庫だから読んでみようというのではないと思います。確かに谷重治さんはすごく協力してくれた方なのでこの名前は残したいのですが、それはジャンルで探すので左側に置いて、もっと見てもらいたいものを絵のところをクリックすると出るようにすると良いと思います。例えば、「児童書読み放題 350 点」は、ちょっと見てみよう、とクリックするようになると思うのですが、KOTOBUKIYA presents と言われて、じゃあ、ちょっと見てみよう、と本を探す人がいらっしやるのかということが気になりました。

資料と関係のないことで申し訳ないのですが、以上です。

○栗原教育長 池田図書館長、お願いいたします。

○池田図書館長 まず、右側のジャンルについて、似たような関連するものについては、連続したほうがいいのかということで、「たちむにい」なら「まちづくり」や「ごみ」とご提案いただきましたので、そのとおりでと思いますので、担当と相談して並べ替えも検討いたします。

それと、防災につきましては、数が少ないということや立川断層のことなどを、今、ご指摘いただきました。職員も検索して随時充実させる取組にしていきたいので、またお気づきの点があれば、こんなものもあるとご指摘いただければ随時追加いたしますし、職員も充実化を目指しておりますので、ご協力をいただきたいと思います。

それと、トップ画面につきましては、立飛さんには寄贈いただいているのですが、これをクリックすると寄贈いただいた趣旨やどういった蔵書構成になっているのかということ、また壽屋さんにも多大なお金の寄附をいただいていますので、その中でどういうジャンルで構成されているのかということが分かるようになっております。これで完璧というわけではありませので、ご指摘いただいた中で常に私たちは画面のリニューアルが必要と感じており、随時反映させていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

以上です。

○栗原教育長 ご意見ありがとうございました。ほかはいかがでしょうか。

堀切委員、お願いいたします。

○堀切委員 私も、電子図書館は、子どもを寝かしつけてから、寝かしつけた格好のまま読めるので、とても楽しませていただいていますし、ありがたいなと思っております。立川市民科は、私はまだ全体がどのような感じでやるのかというのは分かっていないのですが、これだけの資料があれば本当にいいと思いますし、私も2〜3読ませていただいて大変勉強になりましたので、少しずつ読みたいと思っております。一つ立川市民科がどういうことをやっているかというのが分かっていない部分もあるのですが、学校整備基本計画という学校をどういうふうに造っているかという冊子を私は頂きました。市民の声がこういう感じで、こういうような学校を造っているというようなことが書いてある冊子を頂いて、これは子どもが読んだら面白いのではないかと思ったのです。歴史というのは、もちろん、今とのつながりが大人になれば分かるのですが、自分にどう関係するのかというのは子どもの頃はやはりすごく実感が得にくかったというのがあります。

自分の敷地内で新しいものを造っていて、そこで少子化や居場所がないという社会問題を解決しようとしているのは、一番、立川市民科の生きた教材になり得るのかなと思っております。そういうのをここに入れたからといって活用されるかは分からないのですが、そういうのもあると、子どもだったら自分の敷地内で何か起きていて、例えば子どもは12歳や15歳ですと、本当に人生の4分の1や5分の1がもう工事中のような感じになりますので、完成と同時に卒業してしまっただけ残念な子というのも多分いっぱいいると思いますが、そこで今造りつつあるものを目撃できてラッキーと思えると、例えば騒音もうるさいというよりは、何を造っているのかな、と思えるかもしれないと思います。学校整備基本計画をすごくわくわくして私は楽しく見ていたので、ぜひそういうものも出していただけたらうれしいなと思いました。

以上です。

○栗原教育長 ご希望とご意見ありがとうございました。ほかはいかがでしょうか。

〔「ありません」との声あり〕

○栗原教育長 いただいたご意見は可能なものはそうしますし、ただご意見をいただいても、ご寄付を頂いたところや企業にももちろん配慮が必要ということもありますので、その辺の兼ね合いを考えた上で、市民の方が利用しやすいような形になればと思っております。

それでは、ほかにも質疑がないようでございますので、これで、3報告(1)たちかわ電子図書館調べ学習用デジタル資料集について、の報告及び質疑を終了いたします。

次に、その他に入ります。その他はないようでございます。

---

### ◎閉会の辞

○栗原教育長 それでは、次回の日程を確認いたします。次回、第2回教育委員会定例会は、

令和6年1月26日金曜日午前10時から、210会議室で開催をいたします。

これをもちまして、令和6年第1回立川市教育委員会定例会を終了いたします。

午後2時36分

署名委員

.....

教育長